

令和6年度第1回春日井市地域包括ケア推進協議会議事録

1 開催日時 令和6年10月29日（木）午後2時から午後3時30分まで

2 開催場所 文化フォーラム春日井 会議室

3 出席者

【会 長】	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	三浦	久幸
【委 員】	中部大学	白石	知子
	春日井市医師会	前田	誠司
	春日井市歯科医師会	川口	剛
	春日井市民病院	小栗	光俊
	愛知県認知症疾患医療センター	柴山	漠人
	春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会	若月	剛治
	春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会	大野	哲嗣
	地域福祉アドバイザー	南部	哲男
	春日井市社会福祉協議会	大塚	淳弘

【欠 席】	春日井市薬剤師会	林	きよみ
	春日井保健所	増井	恒夫
	春日井市民生委員児童委員協議会	池田	恭子

【事務局】	健康福祉部長	神戸	洋史
	地域共生推進課課長	長坂	匡哲
	課長補佐	上野	陽介
	主査	堀江	侑帆
		田中	衣里
		佐藤	和子
	健康増進課課長	兒島	康万

【傍聴者】 1名

4 議題

(1) 令和6年度春日井市地域包括ケア推進状況報告

ア 在宅医療及び介護連携について

- イ 認知症総合支援について
- ウ 生活支援体制整備について
- エ 介護予防について
- (2) 保険者機能強化推進交付金等の評価について
 - ア 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金における評価結果について
 - イ 春日井市在宅医療と介護の提供体制の目指すべき姿について

会議資料

- 資料1 春日井市地域包括ケア推進状況報告
- 資料2 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金における評価結果について
- 資料3 春日井市在宅医療と介護の提供体制の目指すべき姿について（案）

6 議事内容

議事に先立ち、会議は公開で行うとともに、議事録は要点筆記とし各委員が確認手続きを行った上、会長及び会長が指名する者が署名することを確認した。

(1) 令和6年度春日井市地域包括ケア推進状況報告について

ア 在宅医療と介護の連携について

【堀江主査】資料に基づき説明

【小栗委員】春日井市民病院では、地域の医療介護従事者を対象に年4回研修を実施している。また、人生会議の周知として11月30日の「いい看取りの日」に合わせて市民公開講座の開催を予定し、現在210人くらいの申し込みがある。

【大野委員】入退院支援ルールについては病院から入退院の情報をいただけて、ケアマネジャーとしてはありがたい。

【三浦会長】病院からケアマネジャーに連絡を徹底することは、病院にとって

負担になるのではないかと危惧するがいかがか。

【小栗委員】担当部署からはそのような声は聞こえていない。

【三浦会長】入院時に保険証とかかりつけ医の診察券を一緒にしておくという
ルールの追加は、かかりつけ医の促進としても素晴らしい。

【大野委員】春日井市が独自に取り入れたものである。

【南部委員】この事業の対象者は誰か。

【大野委員】要支援、要介護認定があってケアマネジャーが担当している人が
対象となる。

【川口委員】要介護認定等がない人が入院した場合は、退院してからケアマネ
ジャーを利用することになるのか。

【三浦会長】そのようになると思う。

イ 認知症総合支援について

【堀江主査】資料に基づき説明

【柴山委員】認知症市民シンポジウムでは、多くの方に参加いただけた。認知症
の研究者自身が認知症になったという事案は興味深いものかと思
う。認知症の新薬についての情報としては、レカネマブ（レケンビ）
はアルツハイマー病のごく初期またはMC I レベルなら有効な可
能性がある。その理由は、アミロイドβが脳に沈着して10年後く
らいにリン酸化タウが沈着する。リン酸化タウの沈着と認知症機
能障害との関連があるので、リン酸化タウの沈着が少数のうちに
レカネマブを投与してリン酸化タウの沈着増加を防ぐ。一方、ドナ
ネマブもアミロイドβを対象にした免疫療法だが、レカネマブが
プロトフィブリンを標的にしているのに対し、アミロイド繊維を
標的にしている点で相違がある。アミロイドβはタウ（正常神経細
胞の軸索にある蛋白）のリン酸化を促進する。こういう関係にある
のを理解すれば、レカネマブ等の早期投与の必要性が了解でき
ると考えられる。

【大塚委員】認知症初期集中支援チームへの相談数は増えており周知が進んで
いる。

【若月委員】春日井まつりでは、市、社会福祉協議会、介護保険居宅・施設事業者連絡会で認知症啓発のイベントを開催しているが、今年は地域の中学生や高校生もボランティアで参加いただけた。

【南部委員】若年性認知症は増えてきているのか。

【柴山委員】若年性認知症は全国で 4 万人弱と、昨年から変化はない。サポートを受けて仕事を続けられる人には続けてもらうなど本人の意見を尊重するためにも、本人の声を聞く交流会や研修会は必要。社会としてそのような仕組みができていくと良い。国も推奨している。

ウ 生活支援体制整備について

【堀江主査】資料に基づき説明

【南部委員】地域福祉コーディネーターの関わる地域活動では、今までは高齢者の利用するものであったが、最近は障がい者にも参加が広がってきている。子ども食堂も子どもだけでなく、高齢者の孤食予防にもつながるとして利用が広がっており、全世代型の支援になってきて嬉しく思う。

【大塚委員】地域福祉コーディネーターは他市では地域包括支援センターの職員が担っていることが多いが、本市では春日井市社会福祉協議会に設置し、地域づくりを積極的に推進している。

【三浦会長】孤独孤立対策は内閣府のモデル事業と聞いているが、藤山台・岩成台地区を対象とした理由は何か。

【上野補佐】本市での運用を考えた場合に、地域福祉コーディネーターは日常生活圏域や地域の活動団体との結びつきが強いことを踏まえ、圏域や地域福祉コーディネーターの強みを活かして世代や属性を問わない孤独孤立対策を日常生活圏域ごとで話し合うのがよいと考えた。藤山台・岩成台地区にはグループふじとうという多世代交流の拠点があるため、この圏域からプラットフォームを構築することとした。

このモデル事業に参加する 15 ～ 16 市町村のうち、地域活動者

が主体となり、日常生活圏域単位でプラットフォームを指導する対応は春日井市のみである。今後は市内に水平展開するよう検討していきたい。

エ 介護予防について

【堀江主査】資料に基づき説明

【三浦会長】フレイルやオーラルフレイルだけでなく、ヒアリングフレイル、アイフレイルなども聞かれるようになった。それ以外にも嗅覚のフレイルなど五感に関するフレイルに注目が集まっている。

【川口委員】歯を残す 8020 運動だけでなく、口腔の機能に着目したオーラルフレイルの推進として誤嚥予防プログラムなどを実施している。

【柴山委員】中年期の難聴は認知症の原因のひとつと言われている。補聴器をきちんと装着することが重要。市民にも啓発していただきたい。

【白石委員】一体的事業は順調に進んでいる。今後は地区ごとの取り組みの違いや課題を評価、検討していくことも必要である。

資料全体を通して、今までは地域包括ケアとして高齢者だけのようなイメージがあったが、多世代の視点が重要であり、近年は子ども、成人、障がい者などを包含してきていることが素晴らしい。

(2) 保険者機能強化推進交付金等の評価について

ア 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金における評価結果について

【上野補佐】資料に基づき説明。

【南部委員】記載にある生活援助員研修とは何か。

【上野補佐】介護予防、日常生活自立支援事業における緩和した基準による訪問型サービスとして、事業対象者、要支援者に家事援助を行う生活援助員を養成するための研修を行っている。

【川口委員】資料中にポイント付与者とあるが、ポイント制度とは何か

【上野補佐】介護予防の取り組みへの参加やボランティア活動に参加した際にポイントが付与される仕組みであり、本市でも今年度中にポイント

制度を開始する予定となっている。

イ 春日井市在宅医療と介護の提供体制の目指すべき姿について

【上野補佐】資料に基づき説明。

【白石委員】かかりつけ医、かかりつけ歯科医、の次にかかりつけ薬局となっているが、薬局なのか薬剤師なのか

【兒島課長】実際に対応するのは薬剤師なので、かかりつけ薬剤師としたほうが分かりやすいかもしれない。市の広報でかかりつけ医師等を市民に周知した時は、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師とした。市民に分かりやすい表現を検討し修正したい。

【川口委員】入退院支援について、歯科の患者は入院しても情報が入らず、今までの管理が途切れてしまうことがある。こちらからの連絡も取りづらい。歯科分野についてもフォローできるような記載があるとよい。

【上野補佐】追加記載する。

【南部委員】市外の緩和ケア病棟に行く機会があり、遺族からは最期の時を家族とともに安心して過ごせて良かったと言う声を聞く。看取りへの支援は優しいまちづくりとしても必要なことと思うが、市民病院では緩和ケアの病室はあるのか。

【小栗委員】緩和ケア病棟はないが、緩和ケア病床が2床ある。

【上野補佐】委員のご意見を踏まえ、4看取りについては、「最期まで生活が続けることができる」を、「最期まで安心して生活が続けることができる」に修正する。

【小栗委員】2入退院支援について、退院時の連携については病院としてもしっかり対応していきたい。

【三浦会長】3急変時の対応については、夜間対応や土日祝日の急変時対応をイメージするが、ここでは人生会議について記載しているが、意図が何かあるのか

【上野補佐】春日井市は山間へき地ではなく、基本的に緊急時の医療対応はできているものとする。このため在宅医療と介護の提供体制としての目指すべき姿として人生会議としている。

上記のとおり、令和6年度第1回春日井市地域包括ケア推進協議会の議事の経過及びその結果を明確にするために、この議事録を作成し、会長及び会長が指名する者が署名する。

令和6年12月27日

会 長 三浦 久幸

委 員 白石 知子